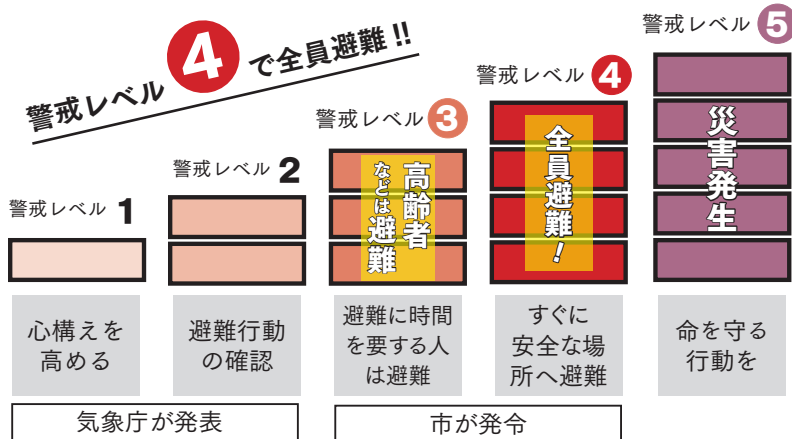


Pick Up!

台風・豪雨に備え、「避難情報のポイント」を整理しておきましょう

☎ 危機管理課 ☎ (22) 2111 (内線286)



警戒レベル4は、「避難勧告」と「避難指示(緊急)」があります。どちらも避難が必要です。避難先には学校だけではなく、安全な親戚・知人宅も含まれます。

マイ・タイムラインを作成しましょう

今年4月に配布した「暮らしと防災ガイドブック」103～105ページをご確認ください。希望により出前講座を開催いたします。(目安：5人以上)



マイ・タイムラインとは、とるべき防災行動をあらかじめ整理して時系列にまとめておくもの

人口の動き

面積：112.18km²
 人口：42,175人 (+18)
 男：20,437人 (+25)
 女：21,738人 (-7)
 世帯数：15,898戸 (+46)
 【2020年5月1日現在】
 () は前月比。
 2015年国勢調査を基に推計。



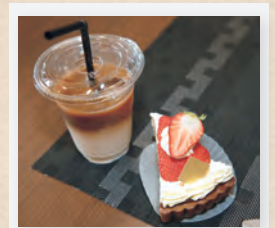
中野市議会
 令和2年6月定例会の会期日程(予定)
 6月4日(木)～6月19日(金)
 市政一般質問
 6月11日(木)、12日(金)、15日(月)

ページ	内容
03	キラリ★中野のチカラ
特集	
04	43,000人の大作戦！ #おごっそりテイクアウト
09	信州なかの未来券
10	新型コロナウイルス感染症に係る相談窓口一覧
12	健康広場なかの
14	生き生き！健康メモ/保健だより
15	市民リレー元気の輪/シニア情報
16	子育て案内
17	子育て支援センター行事予定/わが家のアイドル
18	暮らしの情報掲示板
23	フムフムモグモグキャンペーン
24	信州なかの日和/市長のわくわくレポート
25	私の提言
27	交差点
28	財政状況
29	文化なかの
30	図書館情報
31	博物館だより/職員採用試験
32	広報クイズ

※「まちかどトピックス」、「夢」はお休みします。
 ※掲載している行事や講座などは、中止・延期することがあります。詳しくは公式ホームページなどでご確認ください。

今月の表紙

新型コロナウイルスの影響で、外出自粛の動きが広がる中、テイクアウトやデリバリーしているお店を利用して、地域の味を応援しませんか。





地域の未来を照らすみなさんを紹介します。

キラリ★中野のチカラ No. 78



長野を拠点に、
世界を目指しています。
活躍することで、
恩返しできればと思います。

-Profile- ばば なおと

1996年山ノ内町に生まれる。中野立志館高校・専修大学卒業。2歳上の兄の影響で小学校2年からクロスカントリースキーを始め、2020年4月に中野土建(株)へ入社。現在、日本ビール(株)、ニューエラ、ゴールドウィンとスポンサー契約を交わしている。オフシーズンの現在は、勤務の傍ら、木島平村などでトレーニングを行っている。競技シーズンの12月～翌年3月にかけて国内外の大会に出場し、優秀な成績を収めている。

主な大会成績

- ▶ 2015年2月 FIS ジュニア世界スキー選手権 (カザフスタン) 男子スキーアスロン 20km 第9位
- ▶ 2019年3月ユニバーシアード冬季競技大会 (ロシア) 男子フリー 30km 優勝
- ▶ 2020年1月 FIS クロスカントリーワールドカップ (ドイツ) 男子スキーアスロン 30km 第17位

▲2019年ゼーフェルト世界選手権(オーストリア)の様子



▲土木作業に従事している様子 (写真右側が馬場さん)。



▲競技への熱い思いを語る馬場さん。

クロスカントリースキーヤー

馬場 直人

(中野土建(株)スキークラブ)



▲Instagram



内々を寄せ付けないくらい力を付けたいと、世界で戦えないと感じます。」

そう話してくれたのはクロスカントリースキーヤーとして世界で活躍する馬場直人さん。

「高校3年のときに、世界ジュニア選手権で世界の同年代の強豪相手に9位という成績を残せたことで、より高みを目指したいと思うようになりました。今年4月から中野土建(株)に勤務していますが、仕事中は会社の皆さんにも、怪我をしないよう気を遣っていたり、地元を拠点に活動したい自分にとって、とても恵まれた環境にいると感じています。冬季は国内外で多くの大会に参加し、良い結果を出すことで、広告塔として恩返ししたいと思っています。この競技は、ヨーロッパで人気があり、出場選手の意気込みが日本の選手と比べてとても高いです。ハンゲリー精神というのでしょうか。また、コース沿いの観戦者数も多く、とても良い刺激になります。」

馬場さんの今後の課題と目標について尋ねた。

「自分の強みはスタミナと考えていて、逆に技術的な面は海外の選手と比較すると、まだ劣っていると感じます。今後は技術を重点的に磨き、機会があれば海外で本格的なトレーニングも行ってみようと思っています。目標は、2022年の北京オリンピック冬季大会で、日本代表として出場・メダル獲得です。目標に向かって今後ともトレーニングしていきます。」